

一般社団法人  
日本看護系学会協議会  
ニュースレター  
JANA

第 30 号

2023年3月25日 発行

編集発行

日本看護系学会協議会

(事務局)〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1

パレスサイドビル9F(株)毎日学術フォーラム内

一般社団法人日本看護系学会協議会

TEL:03-6267-4550 FAX:03-6267-4555

E-mail: maf-jana@mynavi.jp

## 新しいフェイズに向けて

一般社団法人 日本看護系学会協議会

会長 萱 間 真 美



厳しかった冬の寒さから、花の便りは早足に、季節が移ろうとしています。今年の寒さは全国的に厳しく、雪の影響を受けた地域も多かったと思います。春の光が明るく感じられます。

新型コロナウイルス感染症の法的扱いが変更される5月に向けて、私たちは医療と日常生活の双方で、再度大きな変化を経験することになります。きっと、様々な混乱や感情が伴うと思われそうですが、季節が足踏みしながらも確実に進んでいくように、この間に養われた忍耐力と適応力、不確定さにも耐えて対応できる力を動員して乗り越えたいと願っています。

早いもので、JANA会長を拝命してから2年が過ぎようとしています。年明けには役員選挙が終わり、6月10日(土)に開催予定の社員総会をもって、新しい役員への引継ぎをいたします。この間、社員学会の皆様のご多大なるご協力を賜り、様々な活動を進めてこられましたことに、まずは心より御礼を申し上げます。

今年の社員総会は役員は会場に参集し、会員学会の皆様にはリモート参加をいただく、ハイブリッド形式を予定しております。度重なる会議への出席を負担に思っていた時期もありましたが、それができない時期を経て、改めて顔を合わせる機会の貴重さも感じられるようになりました。ハイブリッド形式のように、それぞれの利点を活用できる手段を手にしたことは、私たちの人類としての進化と位置付けたいと思います。感染症流行が研究と学会活動に大きな影響を及ぼした2年間でした。リモート会議の定着や学会のハイブリッド開催が、育児や介護中の学会活動参加のチャンスを広げるなどの発展もありましたが、総じて先行きが見通せない中での学会運営には、ご苦労も多かったことと存じます。

今期のJANAでは、国際情勢の不安定化や、日本学術会議をめぐる問題に対する声明の発出、将来構想委員会による今後の活動計画と実施を進めてまいりました。日本看護協会によって提供された看護職のメンタルヘルスケアの相談活動に専門看護師・認定看護師・認定看護管理者を登録する活動など、社会的活動を担えたことも、特筆すべきこ

とであったと思います。会員学会の皆様にご活用いただくホームページについては、4月以降リニューアルした新しいページをご覧いただける予定です。長年、JANAの特性に合わせた迅速な対応をいただき、親身にサポートいただいたムーンファクトリー社の皆様には、この場を借りまして心から御礼申し上げます。

現在も引き続きヒアリングを行っている、「社員学会を対象とした人材育成と活用の実態調査(APNグランドデザインに向けたエビデンス集積のために)」の調査結果については、6月の社員総会での詳細な結果をご報告したいと思っております。学会は、専門とする領域の技術の発展や啓発活動に責任を持つ立場であり、ケアの質を高めるために人材をどう育成・活用していけるかを、第一線で考える立場です。JANAでのディスカッションは、事実に基づき、将来の方向性をともに模索する場とできますことを願っております。このテーマには、息の長い取り組みが必要と考えております。

新型コロナウイルスのパンデミックによる健康危機という難局を乗り越え、その後遺症や様々なひずみも抱えながら、私たちはポストコロナという新しいフェイズに進もうとしています。渦中にあるときには、そんな日が来るとは思えず、絶望感を感じることもありました。それでもこの時は訪れました。

JANAの活動もまた、新たなフェイズを迎えているように思います。看護系学会が力を合わせていける基盤を創られた先達の功績により、日本学術会議との協働、専門性の高い看護師の育成と実質的な活用に資する調査や討議の展開など、実質的な活動が可能となりました。これまで、理事が主に単独で行ってきた各事業を、委員会組織として行うことなども必要です。リモート会議も駆使して効率的な学会運営を進めることが可能となり、こうした変化にも対応可能と考えます。新しく加盟していただいた会員学会もあり、仲間が増えていくことは大きな喜びです。

新しいフェイズに臆することなく、これまでの実績と会員学会のお力により、時代を創っていければと願っています。会員学会の皆様のご協力を、よろしく申し上げます。

# 将来構想プロジェクト

一般社団法人 日本看護系学会協議会

副会長 上別府 圭 子

JANA 将来構想プロジェクトは、2021年度第4回理事会（7月10日開催）において、萱間会長の提案で設置され、上別府が代表に指名されました。その後、理事会メール審議にて、以下のようにメンバーが確定しました。NLでの報告は初めてになりますので、この2年間の活動についてご報告いたします。

（メンバー）上別府圭子（プロジェクトリーダー・副会長）

萱間 真美（会長）

酒井 郁子（高度実践看護師の資格制度構築に向けた活動の推進担当理事）

西村 ユミ（日本学術会議・学協会との連携担当理事）

山川みやえ（庶務担当理事）

佐々木吉子（会計担当理事）

## 1. 財務関連

将来構想プロジェクトのミッションの一つに、資産（災害看護支援事業積立金）の整理があげられていました。これについては、過去の議事録より経緯の検証を行いました。寄附金を活用した支援事業は2016年8月（熊本地震支援）を最後に行われておらず、寄附金相当分はすべて執行済みでした。一般会計より移行された資金が「災害支援事業積立預金」という動きのない口座に残っていましたので、この資金について税理士と相談の上、2021年度第5回理事会（10月26日開催）の承認を得て、一般会計に戻すこととし、2022年度社員総会（6月18日開催）にて報告を行いました（2021年3月末時点残高888,739円）。

## 2. 日本学術会議との連携

日本学術会議との連携は、JANA 設立時（2001年9月）からの本会の重要な役割と言えます。日本学術会議自体が改革の途上にありますが、日本学術会議との連携を通じて、他の学問領域の学協会や市民に対して看護学の存在を示す機会をもつことの意義は大きいと考えます。そこで JANA 将来構想プロジェクトでは、日本学術会議の活動を共同事業として行う旨の覚書を作成し、理事会の承認を得ました。JANA 役員には日本学術会議会員を担当理事として委嘱し、透明性を高めつつ今後も連携してまいります。年に数回、共同で行うシンポジウムでは運営サポート費用として相応の支出が必要ですが、社員学会にも説明しつつ覚書に基づいて支出していきます（1回につき5～10万円）。

## 3. ポータルサイトの拡充

JANA では社員学会あてのメーリングリストを用いて、活動を発信してまいりましたが、社員学会の一般会員にまでは情報が行き届いていないことが懸念されていました。看護系学会の一般会員の方が広く最新情報や JANA の活動成果物にアクセスできたり、これまでの理事会等の資料がわかりやすく保管されていて役員がいつでもアクセスでき

るなど、ホームページの機能の拡充が求められていました。予算的な見通しが立ちましたので、将来構想プロジェクトにてホームページ制作業者のコンペを実施し、株式会社アカリデに依頼することといたしました。その後具体的には、浅野みどり広報担当理事のご報告に譲りたいと存じますが、浅野理事・佐々木理事が JANA のニーズを業者に正確に伝えてくださり、スマートかつ使いやすいホームページに刷新し、2023年3月中にリニューアル・オープンとなります！

## 4. APN について

APN の議論に関しては、焦点化が常に課題で、ロードマップの合意ができていない状況があります。そこで今期の2年間で、今後の APN グランドデザインのためのエビデンス作りをしていくことを目標に決めました。詳細は酒井理事の報告に譲るところですが、次のような手順で議論を深めてまいりました。

- ・2022年1月6日 情報交換会 萱間会長・小松監事・酒井理事の講演と全体討議
- ・2022年4-5月 社員学会への調査①（アンケート）「社員学会を対象とした人材育成と活用の実態調査：APN グランドデザインに向けたエビデンス集積のために」を実施
- ・2022年5月14日 意見交換会 アンケート結果速報をもとに結果報告（酒井理事）
- ・2023年2-3月 調査②（ヒアリング）の実施、調査①時点で承諾を得た学会を対象に、調査員（酒井理事・眞嶋朋子倫理担当理事・浅野理事・上別府）によるオンライン・インタビューにて、APN グランドデザインに向けたエビデンス集積のために必要と思われる活動についてヒアリング

この結果を、次年度社員総会前の意見交換会で報告する予定です。

## 5. 日本看護協会からの委託事業受託について

コロナ禍における看護職の疲弊や離職、女性若年層での自死の増加が問題となっていることから、日本看護協会（JNA）では協会への寄附を活用して、電話相談、メール相談を行ってきましたが、専門看護師や精神科の認定看護師によるズーム（Zoom）相談や、組織の管理者に向けたラインサポートに拡大する計画を立てていました（看護職のためのメンタルヘルス相談窓口）。相談にあたることのできる人材は複数の学会に所属しているので JANA を通して人材を募ることが適当と考えられたため、社員学会への広報・周知・募集・人材リスト作成までの JNA からの委託事業を JANA が受託することを理事会で決定しました。吉田俊子理事（災害看護の学会連携）と山川理事の尽力により2021年12月に JNA との契約を締結し、以降、受託した事業を実施しました。

## 日本学会議・学協会との連携関連

日本学会議・学協会との連携担当理事

西村 ユ ミ

### (1) シンポジウム等の開催

①日本学会議公開シンポジウム「ポストコロナ時代に求められる看護系人材」が、オンラインにて、主催を日本学会議健康・生活科学委員会、健康・生活科学委員会看護学分会、共催を一般社団法人日本看護系学会協議会(JANA)、後援を一般社団法人日本看護系大学協議会、公益社団法人日本看護協会、公益社団法人日本看護科学学会として、5月21日に開催されました。主賓として、文部科学省高等教育局医学教育課課長 伊藤史恵様、厚生労働省医政局看護課課長 習田由美子様よりご挨拶をいただきました。4件の発表、「地域に求められる公衆衛生看護人材：地方行政の立場から」(丹田智美氏)、「訪問看護から見据える看護人材」(藤田愛氏)、「役割拡大が求められる高度実践看護師」(塚本容子氏)、「危機の時代の国際協働を推進できる看護人材」(新福洋子氏)が行われた後に、仲上豪二朗氏、西村正治氏、本間雅江氏からの指定発言を受け、未来の看護に関わる有意義な議論が行われました。参加者数は287名でした。

②日本学会議公開シンポジウム「地元創成看護学の実装—教育・研究・社会貢献の循環」は、第42回日本看護科学学会の第2日目(12月4日)、広島国際会議場第2会場にてハイブリッド開催されました。主催を日本学会議健康・生活科学委員会看護学分会、共催を第42回日本看護科学学会、JANAとする共同開催でした。3つの先駆的な取り組み：「地元から発信する『放射線看護』—弘前大学大学院保健学研究科の取り組み」(野戸結花氏)、「市民向け健康情報サービス『るかなび』の実装」(射場典子氏)、「地域・病院・多職種協働型入退院支援体制構築事業—高知県立大学の取り組み」(森下安子氏)が発表され、西村訓弘氏の指定発言のもと、有意義な議論ができました。会場参加者は20~30名程度、オンラインでは90名を超す参加がありました。

③日本学会議公開シンポジウム「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み—医療・ケア、倫理、政策の捉え直しと提案」の開催が、2023年3月18日に予定されております。主催を日本学会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分会、臨床医学委員会老化分会、健康・生活科学委員会看護学分会、共催をJANAとしております。4つの発表：「我が国における高齢者終末期医療の課題—コロナパンデミックが浮き彫りにした諸問題」(西村正治氏)、「コロナ対応の倫理的問題：功利主義と自由」(河野哲也氏)、「感染予防策と適切な医療の確保の双方に関わる政策課題」(武藤香織氏)、「ウィズコロナ時代の地域社会とケア—すべての人にケアリテラシーを」(山本則子氏)が予定されており、飯島勝矢氏が指定発言をいたします。

### (2) 提案等への参画

①『未来の学術振興構想』の策定に向けた『学術の中長期研究戦略』について、日本学会議少子高齢社会におけるケアサイエンス分会が中心となって作成した、「地域共生社会の成熟・深化に向けたケアサイエンス基盤ネットワーク拠点」に関する議論に参画しました。

### (3) 声明等の発出について

①日本学会議による声明「内閣府「日本学会議の在り方についての方針」(令和4年12月6日)について再考を求めます」を支持することの声明をHPにて公開しました。  
②12月8日(木)に開催された第186回総会の速記録をHPにて共有しました。

日本学会議は、政府と内閣府による日本学会議法改正の提案に対して、強い懸念を表明しております。JANAにおいても、内閣府が示した「方針」は、日本学会議法に謳われている独立性を揺るがすものと受け止め、上述した声明を発表しました。継続して、経過を把握し、社員学会の皆様と共有をしたいと思います。



## 今期の活動を振り返る

高度実践看護師の資格制度構築に向けた活動の推進担当理事

酒井郁子

みなさまこんにちは。あっという間に2年間の任期が終わります。JANAの理事になってからいろいろなことがありました。なんだかあんまり活躍できなかった気がします。一方、やれることはやったような気もしています。これから総会に向けて報告書をまとめて、課題を整理していきたいと思っています。今回のニュースレターでは、これまでの活動を振り返り、所感を述べてみたいと思います。○2022年1月6日 情報交換会 萱間会長・小松監事・酒井理事の講演と全体討議

このとき、私はJANA理事デビューでした。そのためにHPに掲載されているこれまでのJANAの歴史、提言、活動をすべて読み全体の流れを自分なりに把握しました。それで私が理解したことは、高度実践看護師に関するJANAでの議論は、2008年から2019年まで10年以上継続的に行われてきたということです（有識者の皆さんには当たり前のことですみません）。私にとっては驚きでした。

おりしも、2010年にIOMからFuture of Nursingが発行され、APNの役割拡大が提言されています。同年WHOからは専門職連携実践の拡大についての報告書が出されています。これまでのJANAの活動はこのような世界の潮流に即したものであったのだなと思いました。一方APN資格制度構築に関するステークホルダーの合意形成は発展途上であり続けていますし、国民（社会）からの「APNが必要だ」、という世論もまだ高まっているとは言えない状況です。一体それはなぜなのか？というのがわたしの素朴な疑問であり、いまだにこれという答えを見つけれられてはいません。たぶん、これとこれとこれと、という多数の要因はちょっと見えてきました。要因の一つは、平場での議論の不足です。JANA社員学会のみなさまがAPNについてフラットに議論する機会と場が不足し、APNについて議論することはなにかものすごく覚悟の必要なたいへんなこと、という雰囲気なぜだかできてしまっていたこと、これについてはなにかしないといけないのかなと思いました。議論なくしてAPNの実践能力の合意や需給見通しなどはできないわけですので、グランドデザインが明確ではなく、社会は期待や要請をすることもできないのでは？というのが率直な感想でした。

これは今でも変わらず思っています。とくにこれからの看護界を担う若い人たちが議論に参加すること、フロントラインで日々患者さんのケアに当たっている現場の方々、そして、最も重要な患者および家族の方々の意見をいただくことは今期ではできませんでした。

○2022年4-5月 社員学会への調査①（アンケート）「社員学会を対象とした人材育成と活用の実態調査：APNグランドデザインに向けたエビデンス集積のために」を実施し、5月14日意見交換会の開催

実際問題、高度実践看護師の数が少なく、APNの活用育成に限定した社員学会対象の調査は困難でした。しかし看護系の学会ではいろいろな研修を行っていたり、学術集会でいろいろな継続教育、現任教育を受けた看護職の講演

やシンポジウムを行っている学会はかなり行われていきます。ですので、現状を整理し、今後の高度実践看護について看護界として合意可能な一つの大きな絵（Big picture）を描くためには、看護系学会の協議の場である本会において、社員学会の人材育成と活用の実態、学会が認識している課題及び今後の方向性を調査することが必要と考えました。そして認証されている教育課程修了者ならびに学会認定資格取得者、研修プログラム修了者の育成および活動に関する実態、学会が認識している人材育成活用に関する課題および今後の方向性を明らかにし、JANA社員学会および関連する会議において共有すること、その調査結果を共有したうえで建設的な対話を行うことにより、高度実践看護制度の発展を目指した戦略を練ることを目的として調査を行いました。

社員学会48学会に配布し、43学会（回収率89.6%）から回答をいただきました。調査にご協力いただいた社員学会の皆様へ深く感謝申し上げます。社員学会の調査を行って感じたことは、まず回収率の高さへの感謝です。皆さんが前年の意見交換会をへてJANAの活動に高い関心を持っていただいたことにありがたさでいっぱいになりました。そして、そのうえで、いわゆる「専門性の高い」看護師の育成と活動について、具体的体系的に取り組んでいる社員学会は思いのほか少なかった、というのが率直な感想です。この調査をきっかけにデータベースや育成活用を考えていく必要性を感じたという自由記述を多くいただきました。またJANA社員学会間の連携と協働の推進によって、看護系団体合意形成のステークホルダーとして機能してほしいというJANAへの期待もいただきました。やはりこのような実態の共有は必要なことだったのかなと思いました。

○2023年2-3月 調査②（ヒアリング）の実施

調査①時点で承諾を得た学会を対象に、調査員（酒井理事・眞嶋朋子倫理担当理事・浅野理事・上別府副会長）によるオンライン・インタビューにて、APNグランドデザインに向けたエビデンス集積のために必要と思われる活動についてヒアリングを行いました。現在このデータをまとめている真っ最中です。6月の総会でご報告できると思います。その時には忌憚のないご意見、ご感想をいただけたら嬉しいです。このヒアリングでは、このような調査を定期的に行ってほしい、というご意見を複数いただきました。対話の場と機会を意識的に作ることにより、それぞれの社員学会が有する知見、情報が共有されることを実感しました。この場をお借りし、ヒアリングにご協力いただき、率直なご意見をいただきました社員学会の皆様へ深く感謝申し上げます。

APN資格制度の推進を促進するには、わがこととして考え対話と議論を積み重ねていくこと、これはいまでも変わらない気持ちです。そしてその対話と議論は患者・利用者・家族・地域を中心としたものにしていく必要があると思います。

## 災害看護の学会連携について

災害看護の学会連携担当理事

吉田 俊子

災害が多発する昨今の状況の中、災害看護の学会連携担当として、看護系学会の活動と異なる分野との情報共有や交流の活発化を目指し、防災学術連携体におけるJANAの活動を継続して実施しております。防災学術連携体は、日本学術会議の協力学術研究団体として、防災に関わる多分野の学会が集まり、日本および世界の自然災害に対する防災減災を進め、より良い災害復興をめざすことを目的としています。2022年度は、「防災科学の基礎講座」として、一般市民向けの防災講座を募集し、会員に参加と動画作成を依頼しました。日本助産学会より「赤ちゃんご家族のための減災」として①赤ちゃんと安全に避難しよう②赤ちゃんがいる減災対策③被災時の気持ちと対処方法、の3つの動画について参加いただいております。防災学術連携体のホームページにYouTubeを用いて公開されており、大変好評を得ています。

防災学術連携体防災科学の基礎講座

<https://www.youtube.com/channel/UCQtu-J-41euaFQaGyacIXng/featured>

また、2023年に関東大震災後100周年を迎えるにあたり、2023年7月8日(土)に「1923年関東地震100年企画シンポジウム」を(1)地震・地震工学、(2)都市の地震防災、災害後の復興・まちづくり、(3)災害時対応(医療・生

活)、(4)災害と情報・社会の4つのテーマに分けて開催予定をしております。また、防災学術連携体の62学協会による「1923年関東地震100年企画」冊子発行記念冊子作成を進めており、JANAからは日本看護歴史学会にご寄稿を依頼しております。

今年度は、各学会に災害担当者のメーリングリスト更新について連絡し、20学会より更新情報をいただきました。2023年3月現在、JANAのホームページのリニューアルが進行しています。災害看護関連のホームページでは、いまままでホームページに掲載されていた災害関連の項目を、以下の3つに整理を行う予定で進めております。

- ①災害関連活動の情報(発災情報やイベント、セミナー案内等の最新ニュースを掲載)
- ②被災地における活動報告等
- ③会員学会や関連学協会が所有するプロダクト(シンポジウム等の資料、ガイドライン、リーフレットなど)やリンク

新しいホームページ開設にむけて会員からの情報を収集し、情報の共有の場としての活用を図っていきたいと思います。また災害看護の学会連携につながる他学会との共催や連携企画を推進してまいりたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

## 看護ケアガイドライン開発普及関連

看護ケアガイドラインの開発普及の推進担当理事

荒木田 美香子

近年、医学系学会では、委員会を設けて診断、診療等のガイドラインを作成し、更新しているところが増えていきます。また、1つの学会だけでなく、複数(医学、看護、リハビリ等)の関連学会が協働でガイドラインを作成しているところもあります。

EBM、EBNの動きの中でエビデンスを集積し、活用することが医療・保健専門職の責務であるともいえます。そのような背景のもと、JANAでは会員学会において看護ケアのガイドラインの作成を推進するための活動を行ってきました。

2022年7月に、JANAの48会員学会に調査をしたところ27学会から回答があり、8学会が合計23のガイドラインを作成しているという回答があり、看護系学会においてもガ

イドラインの作成が進んでいることが分かりました。また、研修会開催の要望も高いことから、2022年度の研修会企画として、2023年3月16日にZoomで研修会を開催いたしましたので、報告いたします。

演者とテーマは下記のとおりです。

中山健夫氏(京都大学大学院医学系研究科):「GRADE、NICE、Mindsへの流れと今後の看護ケアのガイドライン」

亀井智子氏(日本在宅ケア学会理事長/聖路加国際大学大学院看護学研究科):「『エビデンスにもとづく在宅ケア実践ガイドライン2022』の作成の経験から—まずは旗を振ってやってみよう!」

申し込み者は358名でしたが、当日の参加者は208名でした。

中山先生はEBMの真の意味、ガイドライン作成へのアメリカ、日本、イギリスの動きについて、さらにCOIについても、本からだけではわからない実際の活動や意味合いをわかりやすく説明されました。さらに、これまで多くの診療ガイドラインや看護ケアのガイドライン作成に当たられてきたご経験から、ガイドライン作成するための組織体制、スコープ作成のコツ、ガイドラインの評価を受けることの重要性、ガイドラインが実践でどのようにされているかということについて、具体的かつ実践的に説明くださいました。

また、亀井先生は在宅ケア学会で、在宅ケア実践ガイドラインを作成するまでの5年間のプロセスについて、Mindsの方式を選択し、その学習会から始まったことから、スコープの作成、レビュー・メタアナリシス、GRADE評価、パブリックコメントというステップを具体的に説明してくださいました。作成過程でご苦労されたことやその対応等も、他学会の役に立つという観点でお話くださいました。

参加者からはガイドライン見直しの年数の目安、Risk of Biasを測るためのフリーソフトはあるのか、ガイドラインを活用する際、患者の価値観や臨床家の考えをどのように加味すべきか、ガイドラインを専門職の研修にどのように組み込んでいけば良いかといった、作成に関する具体的なことから、活用に関することまで、良い観点で質問がありました。

参加者アンケートは研修1日後の時点で139件あり、とても参考になった(77.7%)、やや参考になった(20.9%)であり、98.6%の方が肯定的にこの研修を受け止めていました。

また、参加者のコメントには「EBMの正確な意味を恥ずかしながら初めて学びました」「エビデンスに臨床知を加味することが重要であることが理解できました」「正に目から鱗が落ちる思いでした」というガイドライン自体への理解が深まったという意見に加え、「ガイドラインの作成および活用を医師と議論する際に、現場レベルの経験が軽視されていたが、今日の講義を聴いて臨床経験の重要性を再認識した」「現在行っている在宅ケアを評価するために活用していきたい」「作るのがゴールではない、どう活用すべきか。エビデンスだけでガイドラインは作れない、という言葉が印象的でした」といったガイドラインと実践との関係性への意見、そして「学会として取り組むべきことが少し見えた」「学会が、改めて将来展望をもつ必要を実感した」「昨今、看護界でも積極的にガイドラインを作成することが必要になってきたように感じています。」といった看護系学会としての臨み方といった感想がありました。

前期と今期の理事として4年間、看護ケアガイドライン開発普及関連を担当してきました。自分自身がガイドラインとは何かを勉強しながら進めてきました。この間はまさに新型コロナウイルス感染症のパンデミックの時期でもあり、最初に企画した対面のシンポジウムは延期になり、翌年にWeb会議の企画となりました。しかしWeb会議でいくつかの企画を実施できたからこそ、実践現場の方々にもご参加いただけたのではないかと思います。

看護系学会においてガイドラインの意味や必要性の理解は着実に進んできており、JANAの活動が少しでもお役に立てたのではないかと考えております。

## 医療安全推進における他機関との連携事業

医療安全推進における他機関との協力担当理事

池松裕子

“医療安全推進における他機関との連携事業”では、日本医療安全調査機構（医療事故調査・支援センター）の総合調査委員会として、全国から調査を依頼される「予期せぬ死亡」の事例について検証しています。そのなかで気づいたことのひとつが、昨年のニュースレターに書いたように、呼吸数の未測定です。そこで、臨床に携わる看護師・医師に広く呼吸数測定の重要性をアピールするために、本協議会の社員学会である日本クリティカルケア看護学会と日本救急看護学会、それに、以前、病棟における呼吸数測定の実態を調査した愛知集中ケア認定看護師会が合同で、総勢9名のProjectR<sup>2</sup>というチームを立ち上げ、呼吸数測定普及のための動画を作成することにしました。院内研修で使っていただけるような講義形式のビデオとともに、短い動画をたくさんYouTubeにアップしていく予定です。救急・集中治療医にもご参加いただいています。実は、医師

の中にも呼吸数の重要性を認識していない人が多くいるのです。ぜひ看護師のほうから積極的に医師に報告するようにしてください。

呼吸数に加え、最近気になったのは、自動血圧計で血圧が測定できない場合に、何度も測りなおして時間を費やしてしまうことです。自動血圧計でエラーが出たら、何度も測りなおすのではなく、すぐに脈の強さを触診で確認し、手動で血圧測定するようにしましょう。エラーが出るといことは、極度の異常値であることが示唆されます。測りなおしている間に時間が過ぎてしまうと、緊急対応が遅れてしまいかねません。このニュースレターをお読みになっている方は、看護基礎教育に携わっている方も多いと思います。呼吸数測定とともに、手動での血圧測定の重要性を、学生さんにぜひしっかりとご教授お願いいたします。

# JANAホームページのリニューアルについて

ホームページ&ニュースレター担当理事

浅野 みどり

JANA会員学会のみならず、日頃は本学会協議会の活動にご協力いただき誠にありがとうございます。ホームページやニュースレターは会員学会のみならずをはじめ、他の学術領域関連機関や研究者のみならず、一般市民の方々とJANAとが情報共有により繋がる貴重な窓口的役割をもっていると存じます。約4年前（2019年6月）にJANA理事に就任した際には、右も左もわからないままにホームページ&ニュースレターを担当することとなりましたが、十分な役割を果たしきれておらず、至らない点多々あったことと心苦しく思っております。

このたび、JANAの顔とも言えるホームページは2023年4月からリニューアルされることとなりました。どのようなホームページがみなさまにとって、わかりやすく、様々な情報により簡単にアクセスでき、魅力的かつみなさまのニーズに応えられる有益なものとなるのか、2年近くにわたり理事会で検討を重ねてまいりました。

リニューアルにあたりとくに重要視したことは、①入手したい情報やJANAの成果物にアクセスしやすいレイアウト、②会員学会専用ページを用意するなど対象別の入り口を設けること、③スマートフォン対応機能を強化し、スマホからのアクセスの利便性を向上すること、④セミナーやシンポジウム、助成金などの新着情報がわかりやすく、⑤アーカイブ機能を充実させ、過去の情報も探しやすくすることなどです。その他、災害関連活動の情報ページも整

理・集約してすっきりと一新し、わかりやすくなったと思います。

今後は「会員情報の広場」にはみなさまからの情報もお寄せいただいで充実させ、会員相互の交流／情報交換を活発にできればと願っています。まずはリニューアルしたホームページにどんどんアクセスいただき、ご感想・ご要望などをお寄せいただけましたら幸いです。みなさまの声をいただきながら、JANAのホームページがよりホットな場になりますことをめざしてまいります。



## 【役員】

### 会長

萱間 真美

### 副会長

上別府 圭子

### 理事

荒木田 美香子 (看護ケアガイドラインの開発普及の推進)

池松 裕子 (医療安全推進における他機関との協力)

鎌倉 やよい (公的研究費拡大推進)

酒井 郁子 (高度実践看護師の資格制度構築に向けた活動の推進)

眞嶋 朋子 (研究倫理)

吉田 俊子 (災害看護の学会連携)

佐々木 吉子 (会計)

西村 ユミ (日本学術会議・学協会との連携)

山川 みやえ (庶務)

浅野 みどり (広報 (HP管理・ニュースレターの発行))

### 監事

小松 浩子

村嶋 幸代

## 一編集後記一

新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響、いわゆる“コロナ禍”による社会活動上の制約も徐々に緩和されつつあります。5月8日から、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けは季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行しますが、みなさまはいかがお過ごしでしょうか。また、1年前に発行されたニュースレター第29号の編集後記では、2月22日ロシアによるウクライナへの侵攻が勃発し、JANAからも抗議の声明（3月14日）を発出したこと、そして、一日も早く紛争の収束を心から強く願っていることをお伝えしました。その後1年が経過しても未だ終結が見通せないことが辛く残念でなりません。

今号では、日本学術会議公開シンポジウム「ポストコロナ時代に求められる看護系人材」「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み～医療・ケア、倫理、政策の捉え直しと提案」やAPN資格制度構築に向けた活動の推進、2023年4月からJANAホームページリニューアルに関する話題などをお伝えしています。看護学の更なる発展に向けて、新しいホームページに関するご意見だけでなく、JANAへのみなさまからの忌憚ないご意見をお待ちしております。

(広報担当理事 浅野みどり)

学 会 名	理事長	学 会 連 絡 先						ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会TEL	学会FAX	学会E-mail	宛先(担当者)	
1 公益社団法人 日本看護科学学会	堀内 成子	101-0041	東京都千代田区神田須田町1-5-14 ダイヤモンドビル6階	03-3525-8428	03-3525-8429	office@jans.or.jp	吉川	https://www.jans.or.jp/
2 一般社団法人 聖路加看護学会	片岡弥恵子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内	03-3543-6391	03-5565-1626	slnr@slcn.ac.jp	梅崎	http://slnr.umin.jp/
3 一般社団法人 日本がん看護学会	鈴木 久美	550-0001	大阪府大阪市西区土佐堀1丁目1番23号 コウタイ肥後橋ビル3階D号室 日本がん看護学会事務局		06-6447-2877	info@jscn.or.jp	山本 麻理	http://jscn.or.jp/
4 一般社団法人 日本看護学教育学会	大島 弓子	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jane@mynavi.jp	戸塚	http://jane-ns.or.jp/
5 一般社団法人 日本看護管理学会	坂本 すが	150-0013	東京都渋谷区恵比寿3-29-17 サンシティービル201号室 一般社団法人日本看護管理学会 管理事務所	03-6721-6803	03-6721-6823	kaikai@janap.jp	菊本	http://janap.umin.ac.jp
6 一般社団法人 日本看護研究学会	浅野みどり	170-0013	東京都豊島区東池袋2丁目39-2 大住ビル401 ㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内	03-3982-2030	03-5981-9852	g027jsnr-mng@ml.gakkai.ne.jp	竹下 清日	http://www.jsnr.jp
7 一般社団法人 日本救急看護学会	山勢 博彰	164-0001	東京都中野区中野2-2-3 ㈱へるす出版事業部内	03-3944-8236	03-5981-9852	jaen@herusu-shuppan.co.jp	仲澤	http://jaen.umin.ac.jp/
8 一般社団法人 日本クリティカルケア 看護学会	佐々木吉子	162-0833	東京都新宿区笹塚43 新神楽坂ビル2階	03-5946-8847	03-5229-6889	jaccn@supportoffice.jp	水嶋 弘江	https://www.jaccn.jp/
9 一般社団法人 日本公衆衛生看護学会	岡本 玲子	602-8048	京都市上京区下立売通小川東入る西大路 町146番地 中西印刷㈱内	075-415-3661	075-415-3662	somukai-jimu@japhn.jp	国料 尚子	http://plaza.umin.ac.jp/~JAPHN/
10 一般社団法人 日本小児看護学会	塩飽 仁	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル 株式会社毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jschn@mynavi.jp	今野 優	https://jschn.or.jp/
11 一般社団法人 日本助産学会	片岡弥恵子	116-0011	東京都荒川区西尾久7-12-16 創文印刷工業株式会社内 一般社団法人日本助産学会事務局	03-3893-0111	03-3893-6611	jam-info@soubun.org	奥田 好紀	https://www.jyosan.jp/
12 一般社団法人 日本精神保健看護学会	安保 寛明	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-japmhn@mynavi.jp	齊藤	https://www.japmhn.jp/
13 一般社団法人 日本創傷・オストミー・ 失禁管理学会	紺家千津子	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル ㈱春恒社 学会事業部内 日本創傷・オストミー・失禁管理学会事務局	03-5291-6231	03-5291-2176	etwoc@shunkosha.com	田中 秀子	http://www.jwocm.org/
14 一般社団法人 日本地域看護学会	宮崎美砂子	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 ㈱ワールドプランニング内 日本地域看護学会事務センター	03-5206-7431	03-5206-7757	office@jachn.net	野田 智己	http://jachn.umin.jp/
15 一般社団法人 日本糖尿病教育・看護学会	瀬戸奈津子	170-0013	東京都豊島区東池袋2丁目39-2 大住ビル401 ㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 一般社団法人日本糖尿病教育・看護学会事務局	03-5981-9824	03-5981-9852	g015jaden-mng@ml.gakkai.ne.jp	片山 涼子	https://jaden1996.com/index.html
16 一般社団法人 日本母性看護学会	石井 邦子	170-0013	東京都豊島区東池袋2丁目39-2 大住ビル401 ㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 一般社団法人日本母性看護学会事務局	03-5981-9824	03-5981-9852	g03jsmn-mng@ml.gakkai.ne.jp	北川 良子 新井 陽子	http://bosei.org/
17 一般社団法人 日本循環器看護学会	眞嶋 朋子	112-0012	東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F 一般社団法人学会支援機構内	03-5981-6011	03-5981-6012	jacn@asas-mail.jp	横川 和代	http://www.jacn.jp/
18 高知女子大学看護学会	野嶋佐由美	781-8515	高知県高知市池2751-1 高知女子大学看護学会係	088-847-5524	088-847-5524	kwuaonaddress@cc.u-kochi.ac.jp	畦地 博子	https://www.u-kochi.ac.jp/~nsgakkai/index.html
19 千葉看護学会	増島麻里子	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科内	043-226-2426	043-226-2407	cans-adm@umin.ac.jp a-nakazuru@chiba-u.jp	増島麻里子	http://www.cans-net.jp/
20 日本アディクション 看護学会	日下 修一	244-0806	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16-48 湘南医療大学保健医療学部看護学科 片山典子研究室	045-821-0111	045-821-0116	jadict-office@umin.ac.jp	担当者	http://plaza.umin.ac.jp/~jaddict/
21 日本運動器看護学会	吉田 澄恵	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター 株式会社国際文献社内	03-6824-9371	03-5227-8631	jsmn-post@asbunken.co.jp s-yoshida@thcu.ac.jp		http://www.jsmn.jp
22 一般社団法人 日本家族看護学会	荒木 暁子	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jarfn@mynavi.jp	北川 瑞季	https://jarfn.jp/
23 日本看護医療学会	浅野みどり	461-8673	名古屋市中区大幸南1-1-20 名古屋大学大学院医学系研究科213号室 「日本看護医療学会事務局宛」	052-719-3158	052-719-3158	info@jsnhc.org	三尾	https://www.jsnhc.org/
24 一般社団法人 日本看護技術学会	角濱 春美	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル9F ㈱春恒社学会事業部	03-5291-6231	03-5291-2176	jsnas@shunkosha.com	角濱 春美	https://jsnas.jp/
25 日本看護教育学会	永野 光子	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科 看護教育学専門領域気付	043-226-2397	043-226-2397	jasne_office@yahoo.co.jp	望月美知代	http://square.umin.ac.jp/~jasne/index.html
26 日本看護診断学会	佐藤 正美	160-0022	東京都新宿区新宿1-15-11 イマキレビル ㈱グローバルエクスプレス・国際会議 センター内	03-3352-6223	03-3352-5421	jsnd@convention-access.com	安田 緑	http://jsnd.umin.jp/
27 日本看護福祉学会	生野 繁子	865-0062	熊本県玉名市富尾888番地 九州看護福祉大学看護福祉学部 社会福祉学科 吉岡久美研究室	0968-75-1891	0968-75-1891	kumish@kyushu-ns.ac.jp	吉岡 久美	http://kangofukushi.sakura.ne.jp/



学 会 名	理事長	学 会 連 絡 先					ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会TEL	学会FAX	学会E-mail	
28 一般社団法人 日本看護倫理学会	八代 利香	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター 株式会社国際文献社内	03-6824-9378	03-5227-8631	jnea-post@bunken.co.jp	http://jneanet/index.html
29 日本看護歴史学会	丸山マサ美	812-8582	福岡市東区馬出3-1-1 九州大学医学研究院保健学部	092-642-6710	092-642-6710	satana@jikei.ac.jp	田中 幸子 http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/
30 一般社団法人 日本災害看護学会	酒井 明子	170-0013	東京都豊島区東池袋2丁目39-2 大住ビル401 ㈱ガリレオ 学会業務情報センター内 日本災害看護学会事務局	03-5981-9824	03-5981-9852	g034jsdn-mng@ml.gakkai.ne.jp	片山 涼子 http://www.jsdn.gr.jp/
31 一般社団法人 日本在宅ケア学会	亀井 智子	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jahc@mynavi.jp	北川 瑞季 http://www.jahhc.com/
32 日本手術看護学会	ミルズげ子	113-0033	東京都文京区本郷3-19-7 本郷三宝ビル4F	03-3813-0485	03-3813-0539	jona@yacht.ocn.ne.jp	星 正行 http://www.jona.gr.jp/index.html
33 日本新生児看護学会	内田美恵子	594-1101	大阪府和泉市室堂町840 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪母子医療センター看護部内 日本新生児看護学会事務局	080-4839-0071	0725-55-6701	uchida.mieko@shitoku.ac.jp	宇藤 裕子 http://www.jann.gr.jp/
34 一般社団法人 日本腎不全看護学会	松木 理浩	170-0013	東京都豊島区東池袋2丁目39-2 大住ビル401 ㈱ガリレオ 学会業務情報センター内	03-5981-9824	03-5981-9852	g045jann-mng@ml.gakkai.ne.jp	西津 規 http://ja-nn.jp/
35 日本生殖看護学会	上澤 悦子	144-8535	東京都大田区西蒲田5-23-22 東京工科大学医療保健学部看護学科内 日本生殖看護学会事務局			jsfnjimu@gmail.com	三上 http://plaza.umin.ac.jp/~jsin/index.html
36 日本赤十字看護学会	守田美奈子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内	03-5485-5777	03-5485-5777	jrcsns@redcross.ac.jp	鎌倉やよい http://plaza.umin.ac.jp/jrcsns/
37 一般社団法人 日本難病看護学会	秋山 智	156-8506	東京都世田谷区上北沢2-1-6 公益財団法人東京都医学総合研究所 難病ケア看護研究室	03-6834-2290	03-6834-2291	office@nambyokango.jp ushi2@gunma-u.ac.jp	牛久保美津子 https://nambyokango.jp/
38 一般社団法人 日本放射線看護学会	草間 朋子	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター	03-6824-9370	03-5227-8631	rnsj@kokusaibunken.jp	担当者 http://www.rnsj.jp/
39 日本母子看護学会	齋藤 益子	161-0034	東京都新宿区上落合1-16-7 エヌケイビル5F 株式会社厚德社	03-5348-5018	03-5348-8021	jmica2@gmail.com	関根・松戸 http://nihonboshikango.kenkyuukai.jp/about/
40 日本慢性看護学会	本庄 恵子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内		03-3409-0589	jscicn-office@umin.ac.jp	http://jscicn.com/
41 日本ルーラルナース 学会	大湾 明美	329-0498	栃木県下野市薬師寺3311-159 自治医科大学看護学部内	0285-58-7512	0285-44-7257	sharu@jichi.ac.jp	春山 早苗 http://www.jasrun.org/
42 一般社団法人 日本老年看護学会	正木 治恵	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 株式会社ワールドプランニング内	03-5206-7431	03-5206-7757	office@rounenkango.com	江頭麻衣子 http://www.rounenkango.com/
43 北日本看護学会	塩飽 仁	990-9585	山形市飯田西2丁目2-2 山形大学医学部看護学科内			bureau@njans.net	小林 淳子 http://www.njans.net
44 日本ニューロサイエ ンス看護学会	大久保暢子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学大学院 看護学研究科 大久保研究室内	03-3543-6391	03-5565-1626	nobu-okubo@slcn.ac.jp	大久保暢子 http://www.jann-2012.com
45 一般社団法人 日本フォレンジック 看護学会	加納 尚美	300-0394	茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2 茨城県立医療大学保健医療学部看護学科 加納尚美研究室内 日本フォレンジック看護学会事務局 阿部 宛	029-840-2181		mail@jafn.jp	阿部 https://jafn.jp/
46 日本産業看護学会	河野 啓子	807-8555	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1 産業医科大学 産業保健学部 産業・地域看護学講座内 日本産業看護学会事務局	093-691-7160	093-692-0259	jaohnadmin@mbox.health.uoeh-u.ac.jp	中谷 淳子 http://www.jaohn.com/
47 看護教育研究学会	森 千鶴	305-8575	茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学大学院人間総合科学研究科 看護科学専攻 森千鶴研究室内 看護教育研究学会事務局	029-853-8062	029-853-8062	info@nihonkango.jp	藤森 京子 http://www.nihonkango.jp/
48 日本NP学会	福永ヒトミ	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-np@mynavi.jp	松井 https://www.js-np.jp/
49 一般社団法人 日本在宅看護学会	山田 雅子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学大学院看護学研究科 小野若菜子研究室内3	03-5550-2286		info@zaitakukango.com	小野若菜子 https://www.zaitakukango.com/index.html

\*本リストは2023年3月末時点の情報で修正したものです。

変更点等お気づきのことがございましたら、事務局までご連絡をお願いいたします。

\*2020年12月よりJANA事務局を業者委託いたしました。学会連絡先の修正や変更がある場合は、JANA事務局 maf-jana@mynavi.jp にご連絡いただきますようお願い申し上げます。

